

## 押しつけられた言葉

復興とか風化という言葉への違和感、私にもあるんです。押しつけられた言葉というか、自分の感情の中から湧き上がるものとは、また別のものなのかなと思います。

## 景色も変わっていく

夏に町蒲生を訪れたときには、家々の基礎から夏草が生え、黄色いメマツヨイグサも咲きほこって、その景色から生命力を感じたところもありました。しかし、冬のはじめに訪れた時には夏草は当然枯れて、荒涼とした景色が広がっていました。これだけ景色が変わってしまうということ、時間が経つにつれて忘れていくこと、どうしても重ねて考えてしまいました。

## 私から発信すること

一番大事なことで、一人一人が発信することなんだって思います。この間、同期会があったんですけど、そこで語られたのは一人一人違う状況で、驚くことばかりでした。聞かなければ知らなかったことって、たくさんあると思いました。一人一人が、つながりのある人に伝えることが大事だと思ったんです。

## 言葉を待つ

伝えたいことや考えていることに、言葉がやっとフィットして、「この言葉だ」と思って話し出す人がいるかもしれない。だから、こういう場をつくって「伝えること」を促して、そして、「言葉を待つ」という作業は必要だと感じました。



あの日から、  
いろいろ感じたり、思っていることを、  
言葉にしてみませんか？  
自分の気持ちに、耳を傾けながら。

想う

考える

おしゃべり  
する



2013年1月27日 日曜日 13時30分より  
中央市民センター7階第2音楽室にて

〈主催〉仙台市・公益財団法人仙台市市民文化事業団



「RE:プロジェクト」の情報はこちらから↓

【ウェブ】「RE:プロジェクト」制作日誌 <http://re-project.sblo.jp/>

【ツイッターアカウント】@RE\_project

### 自分も被災者

私は被災地にはいたけど被災者ではないと思っている。だけど、心は被災者。被災者性にうまく対応できていたかという、そうではなかったと思う。なんで2年たって、今もこういう場に来て、たくさん話を聞こうとしているのか…簡単に答えはでないですが、やっぱりうまく対応できていなかったからじゃないかな。

### 自分を見つめる場

こういう場所に出てくるのは、セルフカウンセリングなのだと思います。自分の気持ちを確認したり、被災された方にどういった姿勢でいようか考えたり。そういう機会をいっぱい与えてもらっている。震災がなかったら、こういうことはしていないと思う。圧縮された時間を生きている気がします。

### 震災前に戻す

震災後、他人と自分の距離感を押し量るのが難しくなっている。RE：プロジェクトはそれを回復させる装置として機能しているような気がします。

### 風化なのか、それとも

これだけ情報があふれて、毎日この話題が続いているのに、異なる場所に住んでいる人には話が通じない。こんなもんなのかなって思ってしまう。「こっちは大変だった」って気持ちを伝えたい自分がいるからだと思いますが、なんか、風化というか、違いを感じますね。風化という言葉に隠れた現実というか。

### あふれる情報

新聞やテレビではあれだけ情報が流れる。東京のほうが、よく知っていたり。関心があれば、くまなく情報を集められる状況にある。でも、二次情報は二次情報なんです。もう二次になった時点で、なんか形を変えてしまっている気がする。情報を集めるだけで満足して、一番大事な部分が欠けている気がします。

やっぱり一次情報。現場にいかなきゃいけないと思っている。できるだけ人の話を現場で聞くことでしか分からないことがあるから。

### 思い出するための何か

「ここに自分の家があった」とか、そこに住んでいる人が思い出せる何かがあってほしいと思います。過去のことを「今」にして感じられる仕掛けがあると、忘れないでいられる。誰かにも伝えられるし。

### 外からの言葉／内からの言葉

自宅を再建しました。でも、予定よりもずっと遅れてしまって。東京の知り合いには「どうしてそんなに遅れるの？」と言われるけれど、遅れるには一つ一つに理由があって。家族のことだったり、大工さんの都合だったり。そこにいなければ分からないこともたくさんあります。外からの「震災で遅れた」という一言では括れないことが、たくさんあるんです。